

# 定例自然観察会報告書

2023年10月17日(火)

4班 竹上秀己

実施日	2023年10月14日
テーマ	秋の里地里山を歩く
コース	神鉄押部谷駅～水田地帯～南の尾根～水田地帯～神鉄押部谷駅
集合	10時 神鉄押部谷駅
解散	14時40分 神鉄押部谷駅
参加者	ビジター 34名 会員 28名(内4班21名)

曇り空にいつ雨が降り始めるか不安を払拭できない。最新の天気予報では15時で降水確率70%とか。どうにか予定通りにできるだろうということになる。

駅前の広場を出発し、押部谷駅前交差点を渡り少し歩いたところから観察が始まる。南にまっすぐ伸びる車道の道端にも結構観察できる植物がある。ニシキソウの仲間やミチヤナギ・ユウゲショウ・エノコログサ・ツユクサ・ノブドウなど。ユウゲショウは果実を水で濡らし、花のようにゆっくり開く様子を観察する。これには驚く人が多く、植物(自然)の巧妙な仕組みに感心する。道を右に曲がる辺りで、咲き始めたキンモクセイが薄く匂ってくる。エノキグサやクワクサなどを見て、押部谷小学校前で民家の間の細い道を南へ進む。左側の家は江戸時代に建てられたそうで、立派なクロガネモチの果実が色づき始めている。

民家の間の道を抜けると視界が広がり、田園風景が目に入ってくる。すでに稲刈りを終えた田もあるが、黄金色の稲が残る田

水田近くでの観察のようす

もある。幸いにヒガンバナがまだ多く残っている。イヌタデの紅色も秋らしい。キクノハアオイの根生葉が多く、名を尋ねられる。黒い薬が並ぶシマスズメノヒエの穂に興味を持つ人もある。日頃は見過ごしている草花にじっくり目を向けておられるようだ。明石川までにガガイモ・アキノノゲシ・チョウジタデ・オオイヌホオズキ・オオニシキソウ・セイタ



カアワダチソウ・ミゾソバ・ホシアサガオ・マルバルコウ・ジュズダマ・カナムグラ・ママコノシリヌグイ・ツルヨシなどを観察する。

明石川右岸の福住休憩所で水分補給と押部谷に関わる講話を行う。この地域に伝わる弘

計（のちに顕宗天皇）・億計（のちに仁賢天皇）の説話や押部谷の水田の水利について。

西盛橋からは東西の山を見る。西に雄岡山・雌岡山、東にシブレ山や丹生山系の山が見える。

ミゾソバの花

山への入り口から西の水路沿いでイヌタデ・ベニバナボロギク・ヌカキビ・ミズヒキ・ヒヨドリバナ・ヨシノアザミ・ミゾソバなどを観察する。群生して多くの花を着けてたミゾソバを見て、お花畑のようだとの声も出る。ヤブツルアズキ（アズキの原種）とツルマメ（ダイズ原種）の実も観察できる。



虫除けを振りかけて山へ入り、薄暗い坂道を登る。シダの仲間が多くみられることを確認する。高齢の方もあり、途中で小休止。

峠からは尾根の登り道となり、栗拾いをする人もいる。途中でナツハゼの実を食べて昼食場所の 159.4m ピークに到着、昼食とする。

尾根道を歩く

近江寺道まで続く尾根歩きでは、リョウブ・アズキナシ・ウラジロノキ・コシイ・コシダなどを観察し、近江寺橋までの下り道ではササクサ・スズメウリ・ピロードイチゴ・フユイチゴ・ツルニンジン・イヌザクラなどを観察する。またナラ枯れによるコナラの立ち枯れ・倒木も多く見られた。



近江寺橋に予定時刻より少し遅れて到着。電車・バスの時刻を考えて急ぎ目に押部谷駅に向かう。

14:43 の電車に間に合い解散。

途中短時間雨が降ったものの、雨はすぐに止み、無事終えることができたことが何よりでした。

押部谷駅に向かう帰り道から見る押部谷

